

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

フタル酸ジトリデシルの藻類 (*Selenastrum capricornutum*) に対する生長阻害試験

試験番号

7 B 7 2 5 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 201 「藻類生長阻害試験」 (1984年) に準拠して実施した。

- 1) 被験物質: フタル酸ジトリデシル
- 2) 暴露方式: 止水式, 振とう培養 (100rpm)
- 3) 供試生物: *Selenastrum capricornutum* (ATCC22662)
- 4) 暴露期間: 72時間
- 5) 試験濃度 (設定値): 対照区, 助剤対照区, 50.0 mg/L (分散可能最大濃度)
(助剤濃度: 100mg/L, HCO-40使用)
- 6) 試験液量: 100 mL (OECD培地)
- 7) 連数: 3容器/濃度区
- 8) 初期細胞濃度: 1×10^4 cells/mL
- 9) 試験温度: 23 ± 2 °C
- 10) 照明: 4000~5000 lux (連続照明)
- 11) 被験物質の分析: HPLC法

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の濃度は開始時において設定値の±20%以内であったため、下記の生長阻害濃度の算出には設定値を採用した。なお、暴露72時間後の設定値に対する割合は92%であった。

2) 生長曲線下面積の比較による阻害濃度

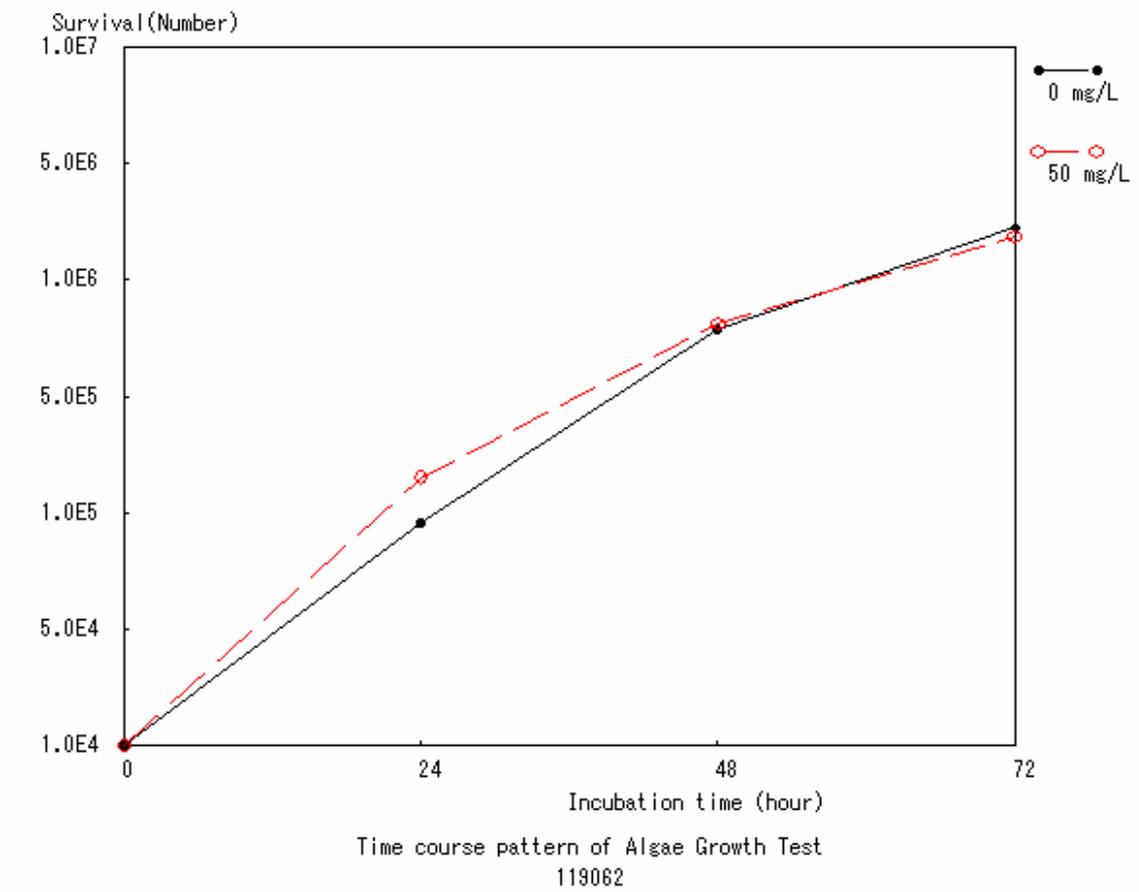
50%生長阻害濃度 EbC50(0-72) : >50.0 mg/L
無影響濃度 NOECb(0-72) : >50.0 mg/L

3) 生長速度の比較による阻害濃度

50%生長阻害濃度 ErC50(24-48) : >50.0 mg/L
無影響濃度 NOECr(24-48) : >50.0 mg/L
50%生長阻害濃度 ErC50(24-72) : >50.0 mg/L
無影響濃度 NOECr(24-72) : >50.0 mg/L

ジトリデシルフタレート (Cas.119-06-2)

生長曲線



毒性値

- ・0-72hErC₅₀: > 50 mg/L
- ・0-72hNOECr: > 50 mg/L

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

フタル酸ジトリデシルのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する急性遊泳阻害試験

試験番号

7 B 7 4 3 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202 「ミジンコ類，急性遊泳阻害試験および繁殖試験」 (1984年) に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： フタル酸ジトリデシル
- 2) 暴露方式： 止水式
- 3) 供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間： 48時間
- 5) 試験濃度(設定値)： 対照区，助剤対照区および 50 mg/L
(助剤濃度：100 mg/L, HCO-40使用)
- 6) 試験液量： 1 容器 (連) に付き 100 mL
- 7) 連数： 4 容器 (連) / 濃度区
- 8) 供試生物数： 20頭 / 濃度区 (1 連に付き 5 頭)
- 9) 試験温度： 20±1℃
- 10) 照明： 16時間明 / 8時間暗
- 11) 被験物質の分析： HPLC法

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

暴露開始時および 48 時間後に測定した被験物質の実測濃度が設定値の±20%以内であったので、各影響濃度の算出には設定値を採用した。

2) 24 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : >50.0 mg/L

最大無作用濃度 (NOECi) : >50.0 mg/L

100%阻害最低濃度 : >50.0 mg/L

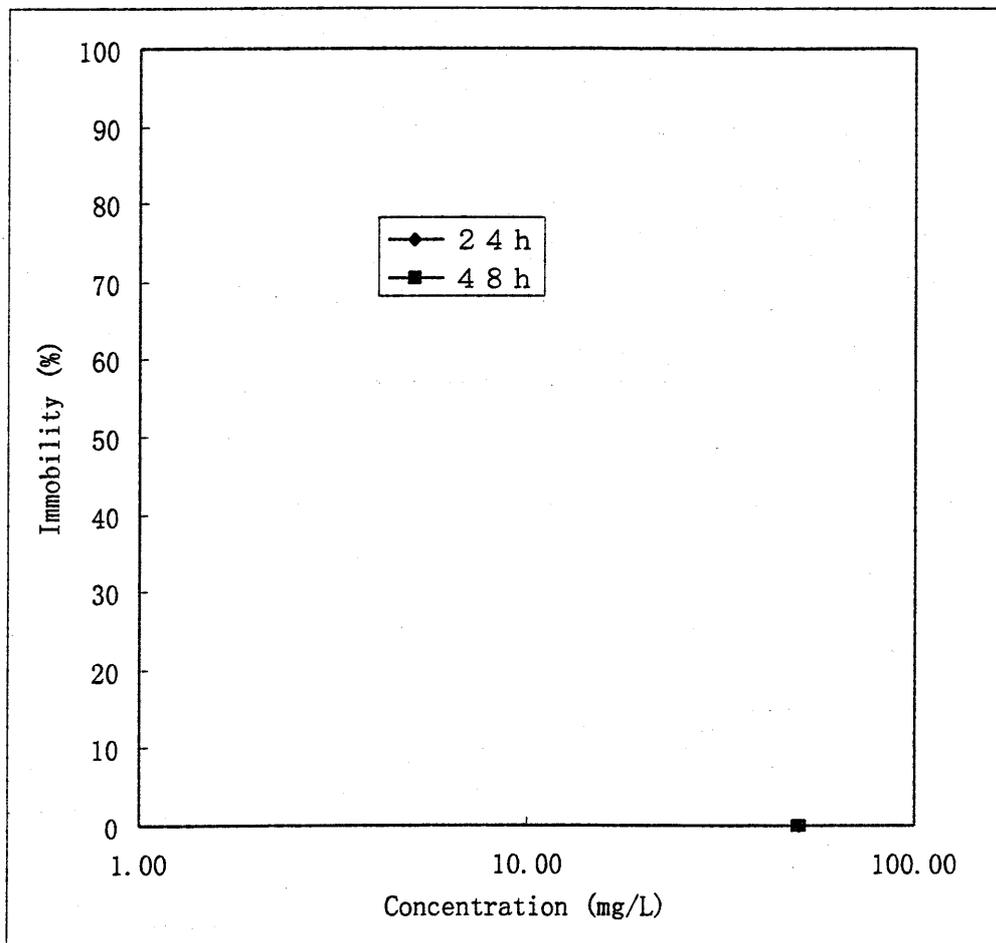
3) 48 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EiC50) : >50.0 mg/L

最大無作用濃度 (NOECi) : >50.0 mg/L

100%阻害最低濃度 : >50.0 mg/L

Figure 1 Concentration-Immobility Curve for a 48-Hour *Daphnia magna* Immobilization Test



要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

フタル酸ジトリデシルのオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験

試験番号

7 B 7 6 1 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類，急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年4月採択）の改訂版であるガイドライン No.211「オオミジンコ繁殖試験」（1997年4月提案）に準拠して実施した。

- 1)被験物質： フタル酸ジトリデシル
- 2)暴露方式： 半止水式（週に3回，試験液の全量を交換）
- 3)供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4)暴露期間： 21日間
- 5)試験濃度(設定値)： 対照区，助剤対照区，10.0 mg/L（試験可能上限濃度）
（助剤濃度一定：40mg/L，HCO-40 および DMF使用）
- 6)試験液量： 1容器（連）につき 80 mL
- 7)連数： 10容器（連）／濃度区
- 8)供試生物数： 10頭／濃度区（1連につき1頭）
- 9)試験温度： 20±1°C
- 10)照明： 16時間明／8時間暗
- 11)被験物質の分析： H P L C法

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

暴露期間中に測定した試験液の被験物質濃度が、設定値の±20%以内であったため、各影響濃度の算出には設定値を採用した。

2) 21日間の親ミジンコの半数致死濃度 (LC50) :

>10.0 mg/L

3) 21日間の50%繁殖阻害濃度 (EC50) :

>10.0 mg/L

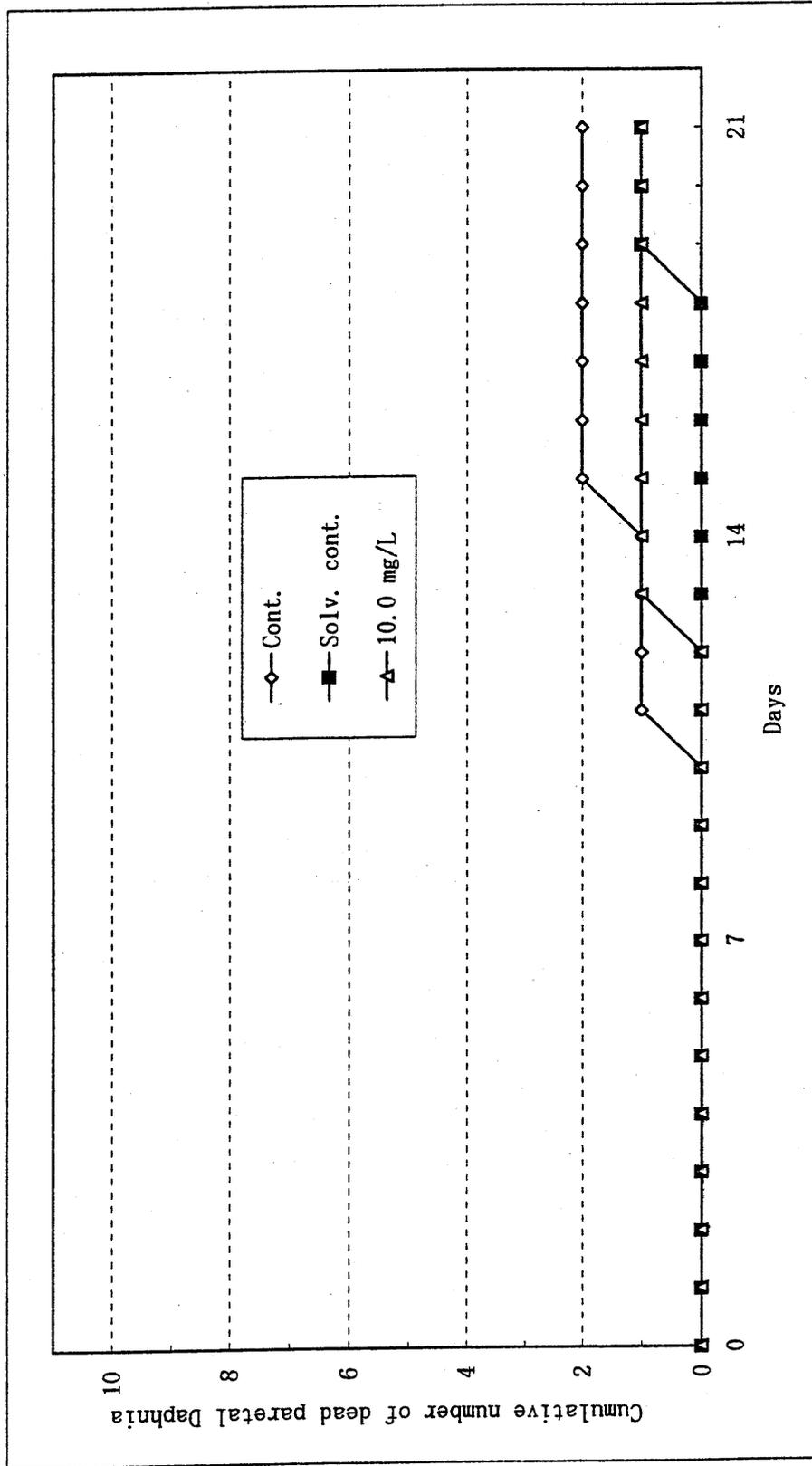
4) 21日間の最大無作用濃度 (NOEC) :

>10.0 mg/L

5) 21日間の最小作用濃度 (LOEC) :

>10.0 mg/L

Figure 1 Cumulative Numbers of Dead Parental *Daphnia*

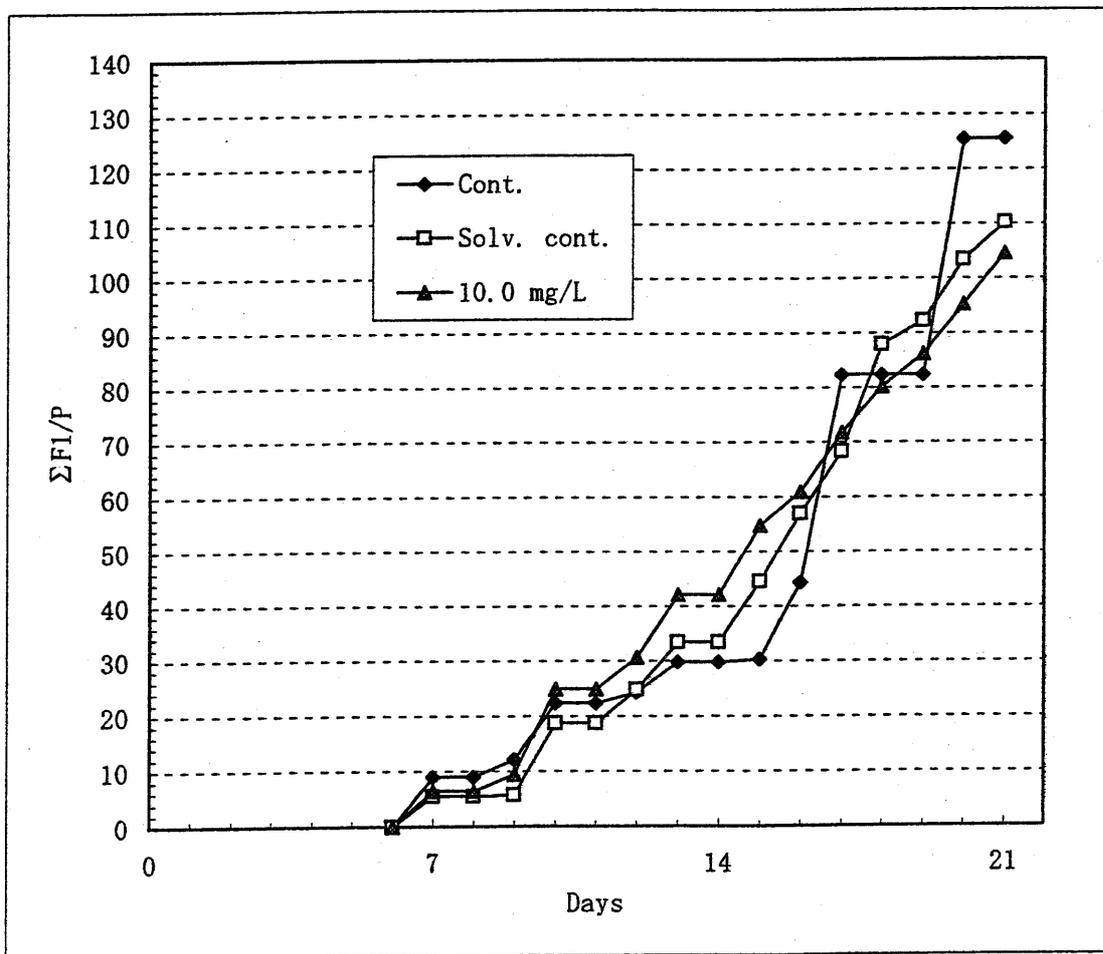


Values in legend are given in the nominal concentration.

Table 4 Mean Cumulative Numbers of Juveniles Produced per Adult Alive for 21 Days ($\Sigma F1/P$)

Nominal Conc.	Days															
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
Cont.	0.0	9.0	9.0	12.1	22.3	22.3	24.3	29.8	29.8	30.3	44.3	82.4	82.4	82.4	125.5	125.6
Solv. cont.	0.0	5.4	5.4	5.7	18.7	18.7	24.8	33.3	33.3	44.4	56.9	68.3	88.0	92.2	103.4	110.2
10.0 mg/L	0.0	6.4	6.4	9.4	24.9	24.9	30.6	42.1	42.1	54.7	60.9	71.8	80.2	86.2	95.2	104.6

Figure 2 Time Course of $\Sigma F1/P$ for Each Concentration Level



Values in legend are given in the nominal concentration.

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

フタル酸ジトリデシルのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験

試験番号

7B779G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.203「魚類毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

- 1)被験物質： フタル酸ジトリデシル
- 2)暴露方式： 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
- 3)供試生物： ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4)暴露期間： 96時間
- 5)試験濃度 (設定値)： 対照区, 助剤対照区および50.0mg/L(限度試験)
- 6)試験液量： 5.0L
- 7)連数： 1 容器/濃度区
- 8)供試生物数： 10尾/濃度区
- 9)試験温度： 24±1°C
- 10)照明： 16時間明/8時間暗
- 11)被験物質の分析： H P L C法

結 果

- 1)試験液中の被験物質濃度： 測定濃度の設定濃度に対する割合は±20%以内であった。したがって、結果の算出は設定濃度に基づいて行った。
- 2)96時間の半数致死濃度 (LC50)： >50.0mg/L

Figure 1 Concentration-Response Curve
Mortality in Orange killifish

